

「^{きよしき}清色婦人ボランティアグループ」

薩摩川内市入来町浦之名 7 4 8 1

発表者：右 田 陽 子

ただいまご紹介いただきました薩摩川内市入来町の「清色婦人ボランティアグループ」の右田でございます。これから私達の実践活動について発表いたしたいと思います。

● ボランティアグループ結成のきっかけ

昭和56年、国際障害者年を記念して、婦人会でも福祉への意識が高まってきた頃、あるボランティア活動の後お茶を飲みながら、会員のちょっとした一言がボランティアグループを結成しようとチャンスを得ました。

早速清色校区婦人会で話し合いの上、ボランティアの会員募集をしました。

当初35人が加入することになり、2カ月の間に結成の準備をしました。

昭和57年2月28日、県社会福祉協議会ボランティア室長、町長、町社会教育課長、町民課長などのご出席の下、発会しました。

その時「困ったときは、いつでも電話ください」と言われた言葉は今でも忘れていません。

発会式では、ボランティア活動の原則、目標、規則、役員を定めました。

グループの名称を清色城（入来町）の跡地にあやかって、「清色婦人ボランティアグループ」と名付けました。

活動は、会員の重荷にならないように、自分たちが「出来るときに 出来ることを 出来るだけ」を合い言葉にしました。

年齢は制限なく、異年齢同士が世代間の交流で助け合い、学び合い、報酬を求めず、自発的な活動をするを話し合いました。

ボランティアには「どこまでという壁」はありません。

災害が発生したときは出来る範囲で、国内外に温かい心を贈りましょう。

「みんないつかは来る道」です。

「してもらう喜び」より「してあげられる喜び」に感謝しながら、会員力を合わせて、細く、長く、社会に役立つグループでありたいと思っています。

次に主な活動内容について発表します。

◆活動事例（清色婦人ボランティアグループ）◆

① 長寿マスコット和紙人形

清色婦人ボランティアグループでは、昭和63年から「おかげさま」の心を届けるために、和紙を使った「長寿マスコット和紙人形」を2週間かけて500個余り作り、清色地区をはじめ地区内にある養護老人ホームやグループホームの高齢者に贈っています。



高齢者の皆様は、玄関や床様に飾りお守りとして大切にされ、「この人形のお陰で、元気で長生きできます」と大変喜んでいらっしゃいます。

② ふれあいサンキューサロンの開設

「ふれあいサンキューサロン」は、高齢者に社会参加を促し、寝たきり、認知症予防などを目的に、県内各地に開設されています。

清色婦人ボランティアグループでは、地区内に5教室を自主運営しています。



内容は、健康チェック・血圧測定、映画鑑賞、レクリエーション、健康講話、合唱、福引きなど楽しいプログラムです。

指導者は、参加する高齢者や看護師、介護福祉士、社協職員の方にボランティアをお願いし、「みんなが先生、みんなが生徒」を合い言葉に運営しています。

③ 愛の手づくり弁当で訪問活動

「愛の手づくり弁当と訪問活動」はグループ結成当初からの行事で、会員93人が米3合、昆布、大根、人参、からいも、砂糖、油など、家にある品物を持ち寄り弁当を作り、80歳以上の高齢者、75歳以上の一人暮らしの高齢者、障害者の方を対象に実施しています。

手づくり弁当に心温まる手紙を添えた贈り物に、皆さんからは「この町に生まれ、この町で生



活できて嬉しいです」と感謝されています。

④ 資源ゴミ回収による資金づくり

ボランティア団体の活動を継続するためには、活動資金を確保することが大切であることから、資源の有効活用と活動資金作りのために、「資源ゴミ回収」を定期的に行っています。

会員は「お金を出せば済むことだけど、環境問題や資源の大切さを考える機会になっている」と喜んで参加しています。



⑤ 国内外に災害発生の時、状況により義援金を募り町社協を通じて日赤に送金

町内で火災、豪雨、地震災害等があったとき、罹災者に炊き出しや見舞い品を贈ったり、国内外の大規模地震被害者等に援助物資を送ったり、義援金を町社協を通じて日赤に届けています。

⑥ 町内の知的障害者福祉施設（薩来園）、老人福祉施設（博愛園、松清園）に鈴虫かごを贈呈

町内に4カ所ある福祉施設に、会員が大切に育てた鈴虫をかごに入れて届け、入所されている高齢者等に大変喜ばれています。

⑦ 会員も自分のためにも楽しみましょうと「遊楽サロン」と名付けて、工芸作品を手づくりし、文化祭等に出品展示して喜び合っています。

最後に、永六輔さん作詞の「生きているということ」を会場の皆さん方と合唱して、清色婦人ボランティアグループの発表を終わりたいと思います。

～ 合 唱 ～

ありがとうございました。

「生きているということ」 永 六輔作詞 中村 八大作曲

生きているということは 誰かに借りをつくること

生きていくということは その借りを返してゆくこと

誰かに借りたら 誰かに返そう

◆活動事例（清色婦人ボランティアグループ）◆

誰かに そうして貰ったように
誰かに そうしてあげよう
生きていくということは 誰かと手をつなぐこと
つないだ手のぬくもりを 忘れないでいること
めぐり逢い 愛しあい やがて別れの日
その時に悔やまないように 今日を 明日を生きよう
人は一人では 生きてゆけない
誰も一人では 歩いてゆけない
生きているということは 誰かに借りをつくること
生きていくということは その借りを返してゆくこと
誰かに借りたら 誰かに返そう
誰かにそうして 貰ったように誰かにそうしてあげよう
誰かにそうしてあげよう 誰かにそうしてあげよう

